



経営統合最終合意の共同記者会見(平成24年4月26日 仙台市)

「じもとホールディングス」は、 地域に根ざして 地元の経済とお客さまを支え、 地元の未来を創造してまいります



平成24年4月、仙台銀行ときらやか銀行は、共同持株会社設立による経営統合に向けて最終合意いたしました。10月1日、宮城と山形をつなぐ新金融グループが誕生いたします。

名称について

「じもと」は、地元を意味し、地域に根ざして展開していく新金融グループの経営姿勢を表したネーミングです。新金融グループとして、地元の経済、お客さまをしっかりと支えていくことで、地元の未来を創造していきたいとの思いを込めております。

シンボルマークについて

「東北を象徴する『緑の山』。そして、その地元の山々に『こころ(ハート)』を根づかせている。」そんな思いで作成したマークです。仙台銀行(緑色)ときらやか銀行(赤色)がしっかりと手を取り合っています。マークを連続させることで、山やハートが広がり続けるようなイメージを生み出しております。

持株会社の名称とシンボルマークは、両行グループ会社全役員からの公募結果と東北芸術工科大学・中山ダイスケ教授のアドバイスを参考にし、決定いたしました。

東日本大震災を契機に
両行の絆は
より強固なものに



仙台銀行 取締役頭取
三井 精一
(じもとホールディングス会長就任予定)

Q. 東日本大震災から一年が経過した今、両行が経営統合の最終合意を発表されました。その意義をどのように感じておられますか。

A. 東日本大震災で東北が未曾有の被害を受けるなか、両行は地域金融機関として地域復興への支援を最優先し、経営統合を一年延期しました。しかし、両行は、この間に地域復興への様々な連携を強め、パートナーとしての絆、連帯感さらには強まったと確信しています。

宮城と山形は、東日本大震災から立ち直りつつあり、復旧・復興へ一歩一歩前進しています。震災復興がいよいよ本格化してくる今、それに呼応するように新金融グループ設立の最終合意に至りましたが、この時期だからこそ、お客さまは新金融グループに対して、地域経済の復興と発展にしっかり取り組んでほしいと強い期待を寄せられていると理解しています。

「じもとグループ」は、宮城と山形を基盤とする新金融グループとして総力を挙げて、地域経済の一日も早い復興とさらなる発展に貢献してまいりたいと考えています。

宮城と山形をつなぎ、
復興支援と産業交流を
さらに活発化



きらやか銀行 取締役頭取
栗野 学
(じもとホールディングス社長就任予定)

Q. 「じもとホールディングス」が目指す経営目標とグループ戦略を教えてください。

A. 私たちは、宮城と山形を基盤とする新金融グループとして、「お客さまに喜ばれ、信頼され、『じもと』とともに進化する金融グループ」を目指し、「じもと復興戦略」、「じもと経済活性化戦略」、「商品・サービス向上戦略」、「経営資源の効率的配分戦略」に取り組む考えです。

今回の経営統合によって、宮城と山形の両県にまたがる広いマーケットを一つの金融グループで戦略的に営業展開することが可能となります。両行の地元マーケットにおける強みを最大限に活かしつつ、活発な産業交流を主体的に促すことで「じもと」を元気にし、グループとしての取引機会の拡大、取引関係の深化を図ってまいります。

また、東日本大震災で経営統合が一年延期したことにより、新金融グループには新たな使命である「震災復興支援」が加わりました。復興支援についてもグループ力を総合的に発揮することによって、一層の貢献ができるものと考えています。

